

第 3 弾！

学芸員おすすめ BOOK ご紹介



世の中では毎日のように新しい本が出版され、どの本から買っていくか悩ましいものです。いっそのこと全部買ってしまい積読となることも少なくないのではないのでしょうか。そんな皆さまのため、おすすめ BOOK 紹介第 3 弾では、学芸 2 の ^{つんどくびと} 積読人（第 1 位は館長）がリトルワールドの見学に役立つかもしれない本をピックアップしてご紹介。焦点を絞って本を読めば、積読はなくなる……はず？

※WEB 配布用の再編集版のため、書影は掲載しておりません。ご了承ください。



風土建築をつくる旅

小林広英（著）
学芸出版社

紹介

日本、アジア、南太平洋、アフリカにおける調査・再建・新作 15 プロジェクトのドキュメント。近代化と伝統の間で揺れる集落の人々の姿は、グローバル化とローカリティの間で葛藤する都市住民にも示唆をくれる(公式を抜粋・転載)



▲公式 HP

リトルワールドの「西アフリカ カッセーナの家」についても載っていますが、なにより世界のさまざまな身体尺の話が面白い！人物の写真に吹き出しで説明が添えられているなど、ポップで軽やかな雰囲気の世界の建物について知ることができます。



推し博物館 ひとり旅

明（著）
集英社

紹介

大人のひとり旅の目的に「博物館」はいかが？『漫画家しながらツアーナースしています。』シリーズの著者・明さんが、全国の大好きな博物館＝「推し博物館」を旅するコミックエッセイ。博物館の見どころはもちろん、女性のひとり旅にうれしい「旅費」「持ち物」「食事」「夜行バスや寝台特急など移動手段」などの情報コラムも充実！（公式を抜粋・転載）



▲公式 HP

リトルワールドについても取り上げてくださった漫画です！当館もさることながら、他館も非常に魅力的に描かれており、読んでいると博物館めぐりに行きたくなる一冊。いいですね、一人旅で博物館めぐりって。独りで静かで豊かで……。



エスキモーになった日本人

大島育雄（著）
山と溪谷社

紹介

エスキモーとなった伝説の日本人、大島育雄。エスキモーたちのたくましさ圧倒されながらも、酷寒の地で生きるための知恵と工夫、生きざまに魅了された。極北で「猟という、人類にもっとも古い職業の一つにたずさわる」ことを決めた男の物語。（公式を抜粋・転載）



かつて出版されていた本を文庫版として再編集した一冊。口絵にはリトルワールドが所蔵するエスキモーの写真もいくつか載っています！また、大島育雄さんと当館の元館長・大貫良夫には交流もあったそうです。本館展示室第 2 室のお供としてどうぞ！



世界の台所の間取り

岡根谷実里（著） 桔本丹（絵）
エクスナレッジ

紹介

世界各地の家庭の台所を訪れてきた著者が間取りや道具に注目し、暮らしに息づく知恵と工夫を考察。部屋の形、物の並び、聞こえてくる音や香り……。精緻なイラストを眺めながら、時には自分の台所を確かめてみるのもよいでしょう。ページをめくるとに発見がある、世界の台所の旅、お楽しみください。（公式を抜粋・転載）



▲公式 HP

文字や写真に加えて、イラストで表された世界の台所の間取りが非常に魅力的！ リトルワールドでも展示している家屋や国・地域が登場するため、食に関する展示との相性もバッチリ。台所と、そこで生み出される「食事」から人びとを描き出した一冊です。



アイヌもやもや

北原モコットウナシ（著）
田房永子（漫画） 303BOOKS

紹介

日本の民族的マイノリティであるアイヌ。非アイヌにとって、今を生きるアイヌの姿は、まるで厚い「もや」の向こう側にあるかのようです。アイヌは、どんなことに「もやもや」を感じているのか？ その「もやもや」はどこから来るのか？ 無知・無理解や差別の構造、そしてマイノリティとマジョリティの関係など、北原モコットウナシが様々な視点から考察してゆきます。（公式を抜粋・転載）



▲公式 HP

現代アイヌについてはもちろん、LGBTQ+や日常にひそむ何気ない偏見など、身近な「もやもや」にも示唆を与えてくれる一冊です。内容はやや重めですが、軽快な語り口と柔らかなタッチの漫画による解説で、非常に読みやすくなっています。現在開催中の企画展「二風谷アイヌとリトルワールド」のお供にもぜひどうぞ！



クジラとともに生きる

岸上伸啓（著）
臨川書店

紹介

なぜ彼らは、それでも捕鯨を続けるのか 温暖化による生態系の変化や反捕鯨運動など厳しい現実がとりまく極北の村で、クジラを中心とする文化・社会を継承する先住民イヌピアット。捕鯨の準備から狩猟・解体の現場、収穫祭・感謝祭などの祭事に密着し、村びとと対話を重ねるなかで明らかになった、捕鯨文化の実態を紹介する。（公式を抜粋・転載）



▲公式 HP

著者が8年をかけて現地調査を行った、アラスカのイヌピアットの人々について、彼らが行う「捕鯨」という実践を軸に、その暮らしの様子を丹念に描き出しています。普段なかなか接することのない、まさしく「異文化」の姿を、ぜひお楽しみください！

ピンとくる本はありましたか？ 他にも皆さまが読んだ「リトルワールドと親和性が高いかも！」という本があれば、ぜひ「はっけんけいじばん」で教えてくださいね！